

奇跡の一本松

(The Miracle of the Lone Pine)

多喜百合子

大津波で

一面 塩をかぶった土地は

2年目の夏になっても 草がほとんど生えない。

しかし 流されてあとかたもなくなった場所、

たくさんの松の防潮林のあったところに

一本だけ松が 残った。

誰が名づけたかわからないが

人々は 「奇跡の一本松」と呼ぶようになった。

津波で洗われた一帯に奇妙な砂山が点在する。

6歳で一瞬のうちに波にのみこまれた娘をみつけようと

若い母親が通いつめている。

いまでも からだのぬくもりが 母親の中に 残っている。

娘の腕の太さもわかる。

つないでいた手のひらが 毎日少しずつ大きくなっていった

その感触もある。

なのに 今いない。

その 「いない」 がわからない。

砂山の中に遺体をみつけようと

通ってくるが

見つけられないことで

今日も 安心して 帰る。

東日本大震災

死体が確認できた人 ほぼ 15000 人、

行方不明者 未だに約 2900 人